

仲間の声

- 職場の移転で自宅から直接自転車通勤になり早5ヶ月、こんがり日焼けしてしまいました(笑)
横山 真理子さん(吹田市職労)
- 今年度は欠員2名で始まりましたが、10月からやっと正規の人数になるこのことでホッとします。組合のがんばりのおかげです。感謝します。
長尾 真紀さん(目塚市職労)
- やっと過ごしやすいになりましたね!
奥村 至さん(枚方市職労)
- 六甲山にトレッキングしてきました。有馬温泉方面に山を下ったところで割引券を配っていて、少し安く温泉に行けたのでラッキーでした。
香月 亜美奈さん(大阪府職労)
- 今年の夏は本当に暑かった。それに増して息子の野球、そして阪神!もっともっと熱かった!!野球サイコー!
羽山 千夏さん(吹田市職労)
- お盆に子どもや孫たち総勢10人で九州と広島に行ってきました。恐ろしい出費になりましたが、いい思い出になりました。
森川 洋さん(堺市職労)
- 7・8月号の4コマ漫画が面白かったです!
田鎖 彩花さん(寝屋川市職労)



秋の大運動スタート集會に集まった保護者や保育・学童保育関係者

安心して保育ができる体制と環境改善を

(2023秋の大運動スタート集會)

9月17日、秋の大運動スタート集會(保育・学童保育・子育て支援の充実を求める秋の大運動大阪実行委員会)に、保護者や保育・学童保育関係者など、オンライン併用で約300人が参加し、実行委員長の尾崎一美さん(大阪自治労連副委員長)が「署名を全力で取り組みましょう」と主催者あいさつしました。

報告では、全国保育団体「全国の保育事業」、埼玉県学童保育連絡協議会「埼玉の学童保育施策」などたたかう仲間の実践的な活動とともに、「もうひとり保

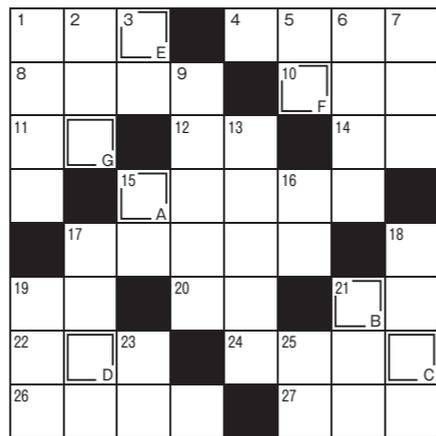
育士を実行委員会」アンケートが紹介されました。講演では、「異次元の少子化対策で子育てしやすい社会はできるのか?働く保護者たちの子育てと暮らしはなぜ苦しいのか」というテーマで荻輪明子さん(名城大学)から保育の厳しい現状から改善への糸口など学ぶことができました。この署名には、誰もが安心して子どもを生み育てられる環境をつくり、元気に健やかな成長を願う保護者と保育士の思いが託されています。そのためにも、「保育の実態」をできるだけ多くの人に理解を求めて、世論と運動で社会を動かしていこうと参加者全員で決意して集會を終えました。

仲間の情報

クロスワードパズル

(解き方)二重ワクの文字をA~Gの順に並べかえてできる言葉を答えてください。

出題者:山本汎昭さん



ヒント:3Tアクション

- ヨコのカギ
- 1 前年に収穫した米を生ずる。○○○○○が
 - 2 ソックスやストッキング類
 - 3 始めること。終了↓
 - 4 減裂
 - 5 海などの水際で石や岩が多い所
 - 6 内容、中味。量より○○○
 - 7 歩いている人。○○○○○優先
 - 8 公式でないこと。○○○○○に訪問する
 - 9 シンデレラがはいたガラスの○○○
 - 10 朝風呂○○○の三食付き
 - 11 老い○○○
 - 12 党かひ離脱○○○○
 - 13 故郷
 - 14 和室
 - 15 鼻↓嗅覚。舌○○○
- タテのカギ
- 1 夏のきびしい暑さ
 - 2 今頃悔やんでもあとの○○○
 - 3 20の上にも三年
 - 4 地上↓
 - 5 外国産の自動車のこと
 - 6 性質のちがうこと。○○○○の文
 - 7 実力の同等な競争相手
 - 8 受信機
 - 9 盾(タテ)と○○○
 - 10 春夏秋冬のことを
 - 11 文字で書いて答えること。↑
 - 12 コーシマ○○○○・南極○○○
 - 13 苦しむ○○○○
 - 14 対策に○○○○
 - 15 コインのこと
 - 16 エトの二番目の動物
 - 17 ○○○・書き・ソロバン

月日流れても...



実際は「アリちゃん、おまて」三毛子、16才です。

7・8月号の解答「カイスイヨク」



7・8月号クイズの正解と当選者2023年7・8月号「クロスワードパズル」の正解は「カイスイヨク」でした。各職場からはがき6通、メール54通合計60人から解答をいただきました。抽選で次の5人のみなさんに図書カードを贈呈します。(敬称略)

- ▼香月亜美奈(大阪府職労)
- ▼西田美香(大阪府労組)
- ▼加納佳恵(堺市職労)
- ▼世川美智子(東大阪市職労)
- ▼横山真理子(吹田市職労)

働く仲間のたすけあい 共済コーナー

2022年度 自治労連共済個人還元金について

自治労連共済は、掛金の7割を支払共済金(うち異常危険準備金に5%)に充てることを基本に運営しています。

決算の結果、剰余金が出た場合は、「剰余金処分基準」にしたがって処分されます。2022年度は、新型コロナウイルス感染症事由による支払いが激増し、支払共済金に充てる金額(受入共済掛金の65%)を大幅に超過しました。そのため、2022年度決算(自治労連第45回定期大会承認)では、単年度収支で約2億800万円の赤字となり、同額を異常危険準備金から取崩し、赤字を補填しました。そのために、期末繰越利益剰余金は0円となり、2022年度の「個人還元」については実施されなかったことが確認されました。

2020年度からの新型コロナウイルス感染症事由による支払件数はすべての加入者の約3割(延べ)にのぼり、支払共済金の累計額は約8億円となりました。東日本大震災関連の支払総額が約9億3,000万円であり、まさに大規模災害とも言える事態でした。

一方で、自治労連共済がこのような事態を乗り越えられたのは、みなさんの加入で仲間同士の助け合い事業を進展させてきているからです。

あらためて加入者のみなさんに感謝申し上げます。なお、重大災害等の事態に対応するための積立金である異常危険準備金は、2023年5月末現在で約50億円となっています。将来予想される巨大地震や自然災害などの大災害に備えるため、基金の積立を継続して行います。

引き続き、自治労連共済への加入とともに、ご家族も含めて新規加入をよろしく願います。

- ・受入共済掛金: 19億9,440万超
- ・支払共済金: 15億3,600万超
- (前年比5億9,000万超増)
- 純掛金ベース(65%)
- *12億9,630万超
- *受入共済掛金のうち、支払共済金に充てる金額